

初の本格コンサート

佐倉市民オーケストラ

16日、市民音楽ホールで

佐倉市で昨秋発足した佐倉市民オーケストラ（井出潔楽団長）が十六日、落成したばかりの同市民音楽ホールで、コンサートを開く。定期演奏会として

は「回目だが、事実上、初の本格コンサート。平均年齢は二十歳、団員数は四十人ど、若くこぢんまりしているが、入場券もすべて売り切れ、「市民と共に歩むオーケストラをめざしたい」と、団員たちは最後の仕上げに余念がない。

オーケストラは、佐倉市鑑木の佐倉城南幼稚園バイオリン教室に通っていた子供たちと父兄が中心になってつくった。最初は先生の東京交響楽団バイオリン奏者、亀山修二さんを交え、合奏を楽しむ程度だったが、昨年十月、管弦楽器奏者を加え「佐倉市民オーケストラ」として発足した。

団員の年齢は、小学四年生から四十代の会社員までと幅広く、親子の団員も。弦、管とも主力は高校生だ。

十六日のコンサートでは、ピアニストの安達多香子さんを迎えて、「ハレルヤ」「ラス」などを取り上げる。指揮は亀山さん。合唱の部分は、市内の合唱団が合同で市内唯一の混声として「佐倉室内オーケストラ合唱団」を結成し、担当する。

「団員数の少なさや運営費の問題など、悩みもありますが、市民の皆さんと楽しい音楽会をつくれるよう、努力したい」と事務局長の鈴木孝一さん。定期演奏会は当分、年に二回ずつ開く予定。団員応募などの問い合わせは鈴木さん（〇四三四一八五一二二九八）へ。